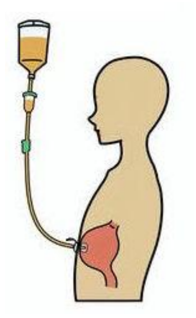
# 生命を維持するために必要なもの　2025.1



生命を維持するためにまず必要なものは、空気（酸素）、水、栄養（エネルギー）です。酸素は数分間供給されないと死に至ります。

酸素は呼吸によって供給されますが、呼吸器の機能がなくなると、救命処置として気管内挿管し、人工呼吸器が装着され、1週間後には合併症予防のため気管切開となるのが一般的です。肺の機能が悪化すれば助かる道は肺移植のみです。自力呼吸機能が回復すれば人工呼吸器は外せますが、回復しなければ心停止まで継続されることになります。

水は一滴も飲めないと数日間で死に至ります。経口摂取が出来なくなると点滴を希望されることがあります。末梢からの点滴は症状の改善のため短期間試みられることがありますが、医師による管理が必要なため原則的に入院が必要であり、効果にも限りがあります。

経口的に栄養が取れなくなった場合、IVH（経中心静脈栄養）、経鼻栄養、胃婁（PEG）（腸婁）などの方法があります。IVH は心臓に近い太い静脈に管を留置し、濃厚液を点滴するもので、一時的には効果的ですが感染などの危険を伴い限界があります。経鼻栄養は鼻孔から胃に挿入した管から流動食を注入するもので肺合併症が多く苦痛を伴います。胃婁は内視鏡を使って安全に造設でき、副作用も少なく、胃腸の機能が正常であればいつまでも使用可能です。管理は一般病棟では入院期間が限られ、療養病棟、老人保健施設、特別養護老人ホームなどで管理されます。また在宅でも管理可能です。しかしながら当地域ではマンパワーが少なく施設では収容人数が限られています。

私たちまたその家族が該当者になった場合、その後の生命維持のためにどのような方法を選択するかの決定は本人、家族にゆだねられます。常日頃、元気なうちに話し合い、意思を表明しておくことが、残された人の悩みを少しでも軽くすることになります。エンディングノートの活用や、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）などが参考になるかもしれません。

下呂市立金山病院　顧問　古田智彦